

報告 **看護系大学生を対象とした「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」の作成報告**

青木早苗<sup>1)</sup> 高橋永子<sup>1)</sup> 池内和代<sup>1)</sup> 寺下憲一郎<sup>1)</sup>  
野村晴香<sup>1)</sup> 杉本加代<sup>1)</sup> 尾原喜美子<sup>1)</sup> 片岡万里<sup>1)</sup>  
濱田佳代子<sup>1)</sup> 高橋美美<sup>1)</sup> 小笠原木綿<sup>1)</sup> 栗原幸男<sup>1)</sup> 平瀬節子<sup>2)</sup>  
(高知大学教育研究部医療学系看護学部門<sup>1)</sup> 高知県立安芸病院看護部<sup>2)</sup>)

Development of a “problem-solving skills measurement scale (Ver.1)” for students in nursing universities

Sanae Aoki<sup>1)</sup> Eiko Takahashi<sup>1)</sup> Kazuyo Ikeuchi<sup>1)</sup> Kenichiro Terashita<sup>1)</sup>  
Haruka Nomura<sup>1)</sup> Kayo Sugimoto<sup>1)</sup> Kimiko Ohara<sup>1)</sup> Mari Kataoka<sup>1)</sup>  
Kayoko Hamada<sup>1)</sup> Mimi Takahashi<sup>1)</sup> Yufu Ogasawara<sup>1)</sup> Yukio Kurihara<sup>1)</sup> Setsuko Hirase<sup>2)</sup>  
(Kochi University Research and Education Faculty Medicine Unit, Nursing Sciences Cluster<sup>1)</sup>  
Kochi Prefectural Aki Hospital, Nursing department<sup>2)</sup>)

要 旨

本学科において、学生の問題解決能力が授業や学年進行に伴い、どのように変化するのが測定することを目的に、「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」を作成したので報告する。尺度の作成プロセスは、1) 問題解決能力の概念化、2) 質問項目の作成・尺度化、3) パイロットスタディによる尺度の修正である。結果、5下位尺度66質問項目で構成される問題解決能力測定尺度を作成した。今後は、この尺度を用いて問題解決能力を測定した結果と、客観的な問題解決能力試験の結果とを比較することによって、尺度の信頼性・妥当性を検討することが課題である。

キーワード：問題解決能力 尺度 看護学生 看護系大学

Abstract

We developed a “problem-solving skills measurement scale (Ver.1)” to examine how the problem-solving skills of nursing students change as they advance to the next grade and as lectures proceed. The new scale was created through the following processes: 1) conceptualizing problem-solving skills; 2) developing scale items; and 3) conducting a pilot study to refine the scale. The final measurement scale regarding problem-solving skills consisted of 5 subscales based on 66 items. Further studies are needed for establishing the reliability and validity of the scale, comparing the assessment by the use of the scale with results of the objective examinations of problem-solving skills.

**Keywords:** problem-solving skills, a scale of measurement, nursing students, nursing universities

受付日：2011年7月4日 受理日：2011年9月28日

## 【緒 言】

本大学では、「地域社会の諸課題を、幅広い教養と緻密な観察力に基づく学際的な視点で自ら捉える課題探求力、さらには諸課題への対応策と解決策を自ら構築し提案できる能力とともに意欲を持った人材を育成する。」ことを中期目標にあげている。そのため、本学科でも、課題探求・問題解決型の教育方法を授業に取り入れた科目が多くなってきている。しかし、現在のところ、科目ごとに授業評価するに留まっており、それぞれの科目でどのような教育方法を取り入れているのか、学生の問題解決能力が授業や学年の進行に伴い、どのように変化しているのかは明らかにされていない。

そこでまず、学生の問題解決能力が授業や学年進行に伴い、どのように変化するのか測定することを目的に、「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」を作成した。この尺度は、学生の問題解決能力がどの程度備わっているのかを把握できる尺度である。この尺度を用いて、経年的に問題解決能力を測定していくことで、4年間の大学生活において学生の問題探求・問題解決能力がどのように変化しているのかを明らかにすることができる。また授業前後で測定することにより、授業が課題探求・問題解決能力を育成する授業形態になっているのか、授業リフレクションする一資料になる。今回は、「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」の作成プロセスと今後の課題を明らかにしたので報告する。

## 【方 法】

「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」は、以下のプロセスで作成した。

## 1. 問題解決能力の概念化

## 1) 分析対象となる文献データの収集方法

データとなる文献は、医学中央雑誌 Web (Ver. 4)、JDream II マルチファイル (JMEDPlus JST)、CiNii より、「問題解決能力」「問題解決力」「問題解決型授業」「課題探求」「看護」のキーワードを組み合わせて、2010年までのものについて検索を行った。まず抄録を確認して、重複しているものを整理し、①患者の問題解決能力を主題としたものを除き、学生、生徒あるいは看護師を対象にしたもの、②能力の発展や成長の側面を捉えた文献であるもの、③会議録及び抄録を除く72件を抽出した。この72件の全内容をレビューし、問題解決能力とその教育的側面について述べた文献を選出し、教育学の文献7件、看護学の文献10件の計17件<sup>1)~17)</sup>を分析対象とした。

## 2) データの分析方法

対象となる文献を読み、内容を明らかにした。そして、Rodgers の分析手法<sup>18)</sup>を参考に、「問題解決能力」に関する記述から、属性、先行要件と帰結に相当する記述を抽出してデータとして扱い、コード化し、最終的にカテゴリーまで抽象度を高めた。

## 2. 質問項目の作成・尺度化

1) 先行文献の分析から得た属性を、問題解決能力の下位概念に位置づけ、先行文献<sup>19)~26)</sup>を参考に、質問項目を作成した。

2) 1質問項目に1つの内容を含むことを原則として、文章を簡潔明瞭に表し、できるだけ平易な用語を用いて質問項目を修正した。また、同じ内容の質問項目は、内容の類似性を考慮しながら、カテゴリー、サブカテゴリー、コードに反映しているか何度も見直し、質問項目を精選した。

## 3. パイロットスタディによる尺度の修正

看護学生20名を対象にパイロットスタディ

を行った。その結果に基づき、質問内容の妥当性、質問表現の適切性などを再度見直した。

## 【結 果】

### 1．問題解決能力の概念化

先行文献の内容を分析した結果、看護学生の問題解決能力の先行要件は3つのカテゴリー、属性は5つのカテゴリー、帰結は2つのカテゴリーが抽出された。問題解決能力の下位概念である属性は、【体系的方法で問題を解決する能力】【思考力】【実行力】【情報処理力】【態度】であった。

### 2．質問項目の作成・尺度化

1) まず、属性のデータを元に合計164項目を作成した。作成においては、できるだけ、データの意味を損なわないことを意図して作成するようにした。

2) 1質問項目に1つの内容を含むことを原則として、文章を簡潔明瞭に表し、できるだけ平易な用語を用いて質問項目を整理・修正した結果、「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」は、5下位尺度66質問項目で構成された。

下位尺度Ⅰは、【体系的方法で問題を解決する能力】であり、22項目で構成される。これら22項目は、問題発見から問題を明確にし、最善策の立案・実行から検証の過程を実行する能力を問う質問項目になっている。

下位尺度Ⅱは、【態度】であり、18項目で構成される。これら18項目は、学生自身の能力や感情および特性を自己理解し、主体的に探究心を持ち問題に臨んでいるか個人の要件を問う質問項目になっている。

下位尺度Ⅲは、【思考力】であり、11項目で構成される。これら11項目は、問題に直面したときに、想像力を使いなが

ら事象の本質を見抜き、要素の関連性を推理・判断する能力がどの程度身についているのかを問う質問項目になっている。

下位尺度Ⅳは、【実行力】であり、9項目で構成される。これら9項目は、問題を解決するために知識や時間、情報などの資源を活用し、他者と強調して自身の技術を使う能力がどの程度身についているのかを問う質問項目になっている。

下位尺度Ⅴは、【情報処理力】であり、6項目で構成されている。これら6項目は、知覚と記憶を照合しながら、必要な情報を収集し構造化する能力がどの程度身についているのかを問う質問項目になっている。

各質問項目は、4段階リカート法により尺度化した。各質問項目の選択肢は、「全くそうだ(4点)」、「どちらかというとそうだ(3点)」、「どちらかというとそうでない(2点)」、「全くそうでない(1点)」とした。

### 3．パイロットスタディによる尺度の修正

パイロットスタディの結果に基づき、質問項目の表現、選択肢の修正を行った。選択肢の選択では、「全くそうでない(1点)」の回答はなく、「全くそうだ(4点)」、「どちらかというとそうだ(3点)」に回答が集中していた。尺度の弁別力を高めることを意図し、各質問項目の選択肢を、「いつもそうである(5点)」、「ほとんどいつもそうである(4点)」、「わりとそうである(3点)」、「時々そうである(2点)」、「あまりそうでない(1点)」に修正した。そして、最終的に「問題解決能力測定尺度 ver. 1」を作成した(表1)。

表 1 問題解決能力測定尺度 Ver. 1

年齢	① 1年生	② 2年生	③ 3年生	④ 4年生	
1) あなたの自身の事についてお聞きします。当てはまる番号に○を付けてください。					
2) 学年	① 1年生	② 2年生	③ 3年生	④ 4年生	
3) 性別	① 男性	② 女性			
4) 住まい	① 家族と同居	② 参加していない	③ その他		
5) 部活・サークル	① 参加している	② していない			
6) アルバイト	① している	② していない			
7) 相談する相手	① 友人	② 先輩・後輩	③ 家族	④ 教員	⑤ その他
8) この質問項目は、大学生活においてあなたが問題にぶつかったときにどのように対応しているのかをお尋ねするものです。質問項目を讀み、今のあなたに最も当てはまる番号に○を付けてください。					
1) 私は日頃から疑問や問題意識を持って生活している	5	4	3	2	1
2) 私は様々な現象から問題や課題を導き出すことができる	5	4	3	2	1
3) 問題にぶつかった時、状況や課題を分析し、何が問題の原因になっているのか推理する	5	4	3	2	1
4) 気になる場面や課題、問題点に気付いた時は対処しようとする	5	4	3	2	1
5) 問題にぶつかった時、どのように情報を得るか方策を立てる	5	4	3	2	1
6) 問題にぶつかった時、まず最初に、その問題に関する情報をできるだけ多く収集する	5	4	3	2	1
7) 問題にぶつかった時、解決すべき問題の周辺にある環境要因についても分析する	5	4	3	2	1
8) 問題にぶつかった時、まず何が問題なのかを明確に把握する	5	4	3	2	1
9) 問題にぶつかった時、似たような過去の問題について考えてみる	5	4	3	2	1
10) 収集した情報を用いて、関連付けて問題を分析する	5	4	3	2	1
11) 問題の解決策を決める時、いろいろな解決方法を考える	5	4	3	2	1
12) 問題にぶつかった時、比較検討し、最も適していると思う方法を選ぶ	5	4	3	2	1
13) 問題にぶつかった時、その問題を解決できるかどうか予測する	5	4	3	2	1
14) 問題解決の計画を立てる時、実行可能かどうかよく確かめる	5	4	3	2	1
15) 問題に対する解決策を実行した後で、状況がどのくらい良くなったかを、できるだけ注意深く評価しようとする	5	4	3	2	1
16) 計画したことは必ず実行する	5	4	3	2	1
17) 解決策を実行したことにより、問題が解決したのを見極める	5	4	3	2	1
18) 問題を解決する過程やその結果を見て、良かったところ、良くなかったところを次の問題解決に活かせるようにする	5	4	3	2	1
19) 問題を解決した後、実際の結果と予測していた結果を比較する	5	4	3	2	1
20) 実行過程を見ながら、上手くない時には解決方法を修正して終了する	5	4	3	2	1
21) 実行したことに対して他者に助言や支援を得ながら再度実行する	5	4	3	2	1
22) 問題解決に失敗した時、私はどうして失敗したのかその原因を考える	5	4	3	2	1
23) 問題にぶつかった時、問題に対する自分の気持ちを分析する	5	4	3	2	1
24) 問題にぶつかった時、自分の考えを明確にすることができる	5	4	3	2	1
25) 問題を解決する時自分の傾向を把握している	5	4	3	2	1
26) 問題を解決するためには、多くの知識が必要である	5	4	3	2	1
27) 自己に対する評価を素直に変り止めることができる	5	4	3	2	1
28) 初めて遭遇する問題が生じても解決する自信がある	5	4	3	2	1
29) 十分な時間をかけ努力すればぶつかった問題には自分自身で解決できると思う	5	4	3	2	1
30) やるべきことは自主的に行うことができる	5	4	3	2	1
31) 主体的に学習することができる	5	4	3	2	1
32) 失敗を恐れず難しいことに挑戦してみたい	5	4	3	2	1
33) 自分の考えを変えて何とか問題解決しようとする	5	4	3	2	1
34) 自分のやり方に向かかって努力を続ける	5	4	3	2	1
35) 問題解決に困難が伴っても、忍耐強く努力し続けることができる	5	4	3	2	1
36) 私の考えだけでなく、他者の意見も参考にする	5	4	3	2	1
37) 物事に対する見方には、自分にも相手にも偏りや限界があると思う	5	4	3	2	1
38) 問題をあらゆる立場から考える	5	4	3	2	1
39) 問題解決には、慎重な態度で臨む	5	4	3	2	1
40) 困った時、細かい情報についても考える	5	4	3	2	1
41) いくつかの解決方法から決断を下すために順序だてて考える	5	4	3	2	1
42) みんなが考えつかないようなことを考える	5	4	3	2	1
43) 好奇心旺盛で、色々なことに挑戦したい	5	4	3	2	1
44) 問題解決するために創意工夫ができる	5	4	3	2	1
45) 新しい問題にぶつかった時、過去の経験をもとに、問題を解決できると感えている	5	4	3	2	1
46) 新しい問題にぶつかった時、過去の意味を見出すことができる	5	4	3	2	1
47) 物事を正確に判断できる	5	4	3	2	1
48) 全てを信じ込まず、自分で考える	5	4	3	2	1
49) 起こるであろう問題を予測して、そうならないように行動できる	5	4	3	2	1
50) 事実に基づいて自ら判断ができる	5	4	3	2	1
51) 考えたことを正確に相手に伝えることができる	5	4	3	2	1
52) 自分の調べたいことについて文献検索をすることが重要であると思う	5	4	3	2	1
53) 自分の調べたいことについて文献検索していくことができる	5	4	3	2	1
54) 新しい問題に生かしていくために必要な知識を活用する	5	4	3	2	1
55) 他者に頼らず、自分で問題を解決することができる	5	4	3	2	1
56) チームで協力しあって問題を解決できる	5	4	3	2	1
57) 困難な問題にぶつかった時、建設的な提案をチームの中で出すことができる	5	4	3	2	1
58) 誰もが納得できるような説明をすることができる	5	4	3	2	1
59) お互いに尊重しあい、意見や考えを交換する	5	4	3	2	1
60) 問題を解決するために観察すること大切である	5	4	3	2	1
61) 問題を解決するために観察すること大切である	5	4	3	2	1
62) 問題を解決するために観察すること大切である	5	4	3	2	1
63) 問題に取り組み時に、総合的に判断できる方法を知っている	5	4	3	2	1
64) 問題を解決しようとする前に、自分の達成したい具体的な目標を立てる	5	4	3	2	1
65) 新しい考えを受け入れる柔軟性を持っている	5	4	3	2	1
66) 自分が備った見方をしていないか振り返る	5	4	3	2	1
3. 今までの質問のような内容(問題解決能力)に、日ごろのどのような出来事が影響していると思いますか。具体的に記載してください。*例えば○○○の授業で行ったグループワークでの出来事(具体的な内容)					
4.好きなアルファベットとお持ちの携帯電話の番号電話の下4けたを入力してください。アルファベットは大・小文字可 A1234) なお、このアルファベットと数字は、今後も使用するので必ず控えておいてください。(必須)					
ID: ( )					

## 【考 察】

学生の問題解決能力が授業や学年進行に伴い、どのように変化するのか測定することを目的に「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」を作成した。「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」について、活用の有効性と問題点、今後の課題について考察を述べる。

「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」は、学生の問題解決能力が現時点でどの程度備わっているのかを把握することができる。また、下位尺度の得点は、それぞれの特徴を表し、どの側面に強みや弱みがあるのかを分析することができる。学生が、自分の問題解決能力について知っておくことは、問題に直面した時、自分の持つ問題解決方法を十分に活用することに有効である。また、尺度を用いて経年的に測定することにより、4年間でどのように問題解決能力が変化したのかを明らかにすることもできる。授業前後で調査を行えば、問題解決能力の得点の変化が分かり、教員が授業リフレクションする一資料になる。しかし、現在の Ver. 1 は、日常生活における問題解決方法を問う内容であるため、問題解決能力の影響要因が授業だけでなく、サークルや部活、友人との人間関係など、日常生活の出来事が大きく影響してくることが考えられる。質問紙には、答えた内容に影響している日常生活のエピソードを問うようにしているが、授業評価にも活用できるように、これから尺度の質問項目の更なる修正が必要である。

今回、文献から内容分析を行った結果をもとに、既存の類似尺度を参考に項目を精選しながら尺度を作成した。質問項目は2回に亘り精選したが、66項目と項目数が多く、下位尺度ごとの項目数にもばらつきがある。尺度の信頼性は質問項目が多いほど高くなるが、回答質問項目数は回答時間を考慮して決定す

る必要がある<sup>27)</sup>。項目数が多すぎると、回答に時間を費やし、評価尺度の反応性が低下することが考えられる。また、下位尺度ごとの項目数のばらつきは、事前に設定した下位尺度通りに質問項目が分かれるのか概念の見直しも必要である。これらを解決するためには、「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」を用いて予備調査を行い、内的整合性や構成概念妥当性の検証を行う必要がある。そして、質問内容や項目数の精選、下位尺度の修正を行っていく必要がある。また、この尺度は、尺度の妥当性・有用性の検証は行っていないため、検証された既存の類似尺度<sup>19)・21)</sup>を外的基準として、基準関連妥当性の検証も必要である。これを行うことにより、尺度の妥当性・有用性が確保できると考える。

尺度の信頼性を考えると、この尺度は、学生の自己評価により結果が導かれるものであり、学生によっては自己評価の高い学生、自己評価の低い学生もいるため、尺度の客観性に欠けている可能性がある。この尺度の客観性を立証していくために、客観的な問題解決能力試験を取り入れ、同じ評価表で学生、評価者がどの程度一致した測定値を得られるのか検証していくことも今後の課題である。

この尺度を授業改善に役立てるためには、本学科において、それぞれの科目でどのような教育方法を取り入れているのか明らかにする必要がある。そして、カリキュラム全体の中で、どのように学生の問題解決能力を育成していくのか、卒業時、学生がどの程度まで問題解決能力を習得することを目標にするのかを明確にしなければならない。

以上より、今後は尺度の信頼性と妥当性の検討をして尺度を修正していくと同時に、教育方法の改善に向けてどのようにこの尺度を活用していくのか検討していく必要性が示唆された。

【ま と め】

学生の問題解決能力が授業や学年進行に伴い、どのように変化するのか測定することを目的に、「問題解決能力測定尺度 Ver. 1」を作成した。尺度は、5下位尺度66質問項目で構成された。

今後は、この尺度を用いて問題解決能力を測定した結果をもとに、内的整合性や構成概念妥当性の検証を行い、「問題解決能力測定尺度 Ver. 2」を作成していく。そして、検証された既存の類似尺度を外的基準として、基準関連妥当性の検証や客観的な問題解決能力試験を行うことによって、尺度の信頼性・妥当性を検討し、尺度の修正を行っていく必要がある。その結果をもとに、最終的には看護学科のカリキュラムにおいて、問題解決能力を育成する授業を開発・改善していくことが今後の課題である。

【文 献】

- 1) 大西信行・萩典子・近藤信子：精神看護学教育におけるケース・メソッド導入の試み，四日市看護医療大学紀要，1(1)，55-60.2008.
- 2) 森美智子・鈴木祐子：看護大学におけるPBL教育，秋田県母性衛生学会雑誌22，2-7，2008.
- 3) 古賀節子：熟達者と初心者の問題解決場面における思考の相違－看護師と看護学生の情報処理アプローチによる知識表象の比較－，日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report，(4)，84-104，2005.
- 4) 森美智子・本間千代子・刀根洋子他：問題基盤型学習(PBL)／テュートリアル教育の3年間の評価，日本赤十字武蔵野短期大学紀要，(16)，69-77.2003.
- 5) 吉谷須磨子・武田洋子：問題解決能力の育成に学習プロセス設計を使い看護実践能力を高める授業，京都大学高等教育研究，(9)，23-29，2003.
- 6) 吉谷須磨子・浦田秀子・中尾理恵子他：看護学生の問題解決能力育成の教育－知識活用の思考を支援するシステムの開発と評価－，長崎大学医療技術短期大学部紀要，(13)，35-42，1999.
- 7) 松寄英士・遠藤英子：看護学生のリスクテイキング行動の分析－クリティカル・シンキング志向性，リスクに対する傾向性とリスク評定との関連－，日本看護管理学会誌8(1)，58-67，2004.
- 8) 澤田和美：臨地実習における看護学生の自信についての研究(その2)－臨地実習で看護学生が習得を求められる行動の自信と問題解決に取り組む態度および特性不安との関係－，横浜創英短期大学紀要(5)，41-48，2009.
- 9) 常盤文枝・高橋博美・大場良子他：PBLテュートリアル教育における学習効果測定を試み～クリティカルシンキングと学習スタイルの変化～，埼玉県立大学紀要，8，69-74，2006.
- 10) 佐瀬真粧美・須田峰子・宮沼順子：若手看護師の問題解決に関する認識の現状－問題解決能力を育てるための支援の方向性を考える－，日本看護学会論文集 看護管理，40，55-257，2009.
- 11) 中島康博・宮川秀俊・山本誠二：技術科教育における問題解決能力の育成に関する研究－「技術とものづくり」の授業実践より－，愛知教育大学教育実践総合センター紀要，13，187-194，2010.
- 12) 小島敏郎：学生の問題解決能力をどう伸ばしていくか，青山スタンダード論集，5，11-17，2010.
- 13) 三谷純子・馬場園陽一：社会的葛藤課題

- による協同的問題解決能力の育成．高知大学教育実践研究．(23)．155-165．2008．
- 14) 森徳治：問題解決能力の発達．児童心理．8(11)．1031-1036．1954．
- 15) 渡辺寛二・佐藤妙子・稲浦綾他：問題解決能力の育成をめざした授業における学生の能力育成に関する自己評価．教育情報研究：日本教育情報学会学会誌．20(2)．15-26．2004．
- 16) 藤木大介・沖林洋平：入学後3ヶ月間の大学教育を通じた批判的思考態度の変化：新入生がもつ専攻領域に関する知識の影響．日本教育工学会論文誌．(32)．37-40．2008．
- 17) 鈴木貢：創造性の開発を目指す授業の試み－問題解決能力の育成－．北海道文教大学論集．(9)．1-11．2008．
- 18) Rodgers. B. L. & Knafl. K. A. : Concept Development in Nursing knowledge ; Foundation, Techniques, and Applications (2nd ed), W. B. Saunders Company. 2000 .
- 19) 中野敬子：ストレスマネジメント入門－自己診断と対処法を学ぶ－．金剛出版．2010．
- 20) 佐藤寛・高橋史・松尾雅他：Social Problem-Solving Inventory-Revised (SPRI-R)日本語版の製作と信頼性・妥当性の検討．行動療法研究．32(1)．15-30．2006．
- 21) 永野光子・舟島なをみ・杉森など里：日本語版 Problem Solving Inventory (PSI)の信頼性・妥当性の検討．看護教育学研究．6(1)．19-26．1997．
- 22) 廣岡秀一・小川一美・元吉忠寛：クリティカルシンキングに対する志向性の測定に関する探索的研究(2)20 93-102 2001 .
- 23) 田村由美・大森美津子・真鍋芳樹他：臨床看護婦とクリティカルシンキング－個人的属性とCT能力の自己評価との関連性－．香川医大看護学会誌．1(1)．46-60 ．1997 ．
- 24) 三枝浩・石川智博・加藤幸一：技術科教育における問題解決能力の育成について．群馬大学教育実践研究 ．27 ．145-162 ．2010 ．
- 25) 澤田和美：臨地実習における看護学生の自信についての研究(その2)－臨地実習で看護学生が習得を求められる行動の自信と問題解決に取り組む態度および特性不安との関係－．横浜創英短期大学紀要．5．41-48．2009．
- 26) 高橋美砂子・新山真奈美：看護学生の課題の取り組み方と自己教育力との関連．秋田県看護教育研究会誌．26.20-25.2001．
- 27) 舟島なをみ：看護実践・教育のための測定用具ファイル第2版．医学書院．1-41．2009．